

2022年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年10月13日

上場会社名	株式会社ケイブ	上場取引所	東
コード番号	3760	URL	http://www.cave.co.jp/
代表者	(役職名)代表取締役社長CEO	(氏名)秋田 英好	
問合せ先責任者	(役職名)代表取締役副社長CFO	(氏名)安藤 裕史	(TEL)03-6820-8176
四半期報告書提出予定日	2021年10月13日	配当支払開始予定日	—
四半期決算補足説明資料作成の有無	: 有		
四半期決算説明会開催の有無	: 無		

(百万円未満切捨て)

1. 2022年5月期第1四半期の連結業績(2021年6月1日～2021年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年5月期第1四半期	280	△35.9	△522	—	△521	—	△519	—
2021年5月期第1四半期	437	—	16	—	18	—	5	—

(注) 包括利益 2022年5月期第1四半期 △521百万円 (—%) 2021年5月期第1四半期 5百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年5月期第1四半期	△99.32	—
2021年5月期第1四半期	1.10	1.00

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年5月期第1四半期	1,253	853	20.4
2021年5月期	1,418	1,059	57.4

(参考) 自己資本 2022年5月期第1四半期 256百万円 2021年5月期 814百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年5月期	—	—	—	—	—
2022年5月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年5月期の連結業績予想(2021年6月1日～2022年5月31日)

2022年5月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算定ができないことから記載しておりません。なお、当該理由などは、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年5月期1Q	5,278,000株	2021年5月期	5,277,900株
2022年5月期1Q	47,227株	2021年5月期	47,227株
2022年5月期1Q	5,230,757株	2021年5月期1Q	5,230,765株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・2022年5月期の業績予想につきましては、前述のとおり記載しておりません。本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な不確定要素により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が依然として続いており、ワクチン接種等が進展していく一方で、変異ウイルスによる感染症拡大という新たな問題が発生し、今後の景気の先行きについては不透明な状況にあります。

このような環境の中、当社ゲーム事業セグメントが属するオンラインエンターテインメント業界におきましては、2020年の日本国内ゲーム市場規模が2兆円を突破し、そのうちオンラインプラットフォームの大半を占めているゲームアプリ市場は1兆3,164億円（前年比8.4%増加）と堅調な成長を続けております（出典：『ファミ通ゲーム白書』株式会社角川アスキー総合研究所）。

また、当社又は連結子会社（以下、「当社グループ」という。）の動画配信関連事業セグメントが属するデジタルライブエンターテインメント業界におきましては、2020年のライブ配信サービスの市場規模は、140億円に達し、2021年には314億円（前年比220%増加）と急成長しております。（出典：株式会社CyberZ「国内デジタルライブエンターテインメント市場に関する市場動向調査」）

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高280百万円（前期比35.9%減）、営業損失522百万円（前年同期は、営業利益16百万円）、経常損失521百万円（前年同期は経常利益18百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失519百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純利益5百万円）となりました。

なお、費用面におきましては、2020年10月30日開催の取締役会において有償発行を決議しております第27回新株予約権が、2021年8月3日の普通株式終値が行使価額の70%を下回ったことにより、強制行使条件に該当することになりましたため、株式報酬費用347百万円を計上しております。

当第1四半期連結累計期間のセグメントごとの状況は次のとおりであります。

ゲーム事業におきましては、主力サービスであるスマートフォンゲーム『ゴシックは魔法乙女～さっさと契約しなさい！～』が引き続き当社グループの収益の柱となっております。しかし経年や前期末において施策やイベントが振るわなかったことによる売上減少により厳しい状況が継続しておりましたが、運営体制の見直し、施策の品質向上やユーザーを飽きさせないアップデートなどの改良により徐々に回復に転じております。一方で関連グッズ販売が予想売上高を超える状況となり、創業27周年を記念し、シューティングゲームのヒットタイトルである『怒首領蜂大往生』『虫姫さま』を無料開放し、『ケツイ～絆地獄たち～』のステージを復刻させる等、今後の売上獲得を目指し創業以来のファンの方々や新たな潜在層に向けたプロモーションを展開しています。また、シューティングゲームの金字塔『東宝Project』のIP許諾を受け、開発を進めております新規ゲームの開発や当社を含む3社が出資者となるスマートフォンゲーム製作委員会（名称未定）の開発は、順調に進行しております。

これらの結果、ゲーム事業セグメント（株式報酬費用を含む。）における売上高は206百万円（前期比39.8%減）となり、セグメント損失は415百万円（前年同期はセグメント損失12百万円）となりました。

動画配信関連事業におきましては、当社独自の対面占いライブ配信プラットフォーム『占占（sensen）』がリリース後、ゆるやかに売上を伸ばしておりますが、現在も投資が継続しており、今後さらなるユーザー数を獲得するためにサービスの品質向上やプロモーションの強化を行っております。次に海外子会社であるケイブ台湾につきましては、開発を進めておりますライブ配信アプリは順調に進行しております。しかし現在も投資が継続しているため早期収益獲得を目的とし、自社コンテンツも含めたコンテンツビジネスにおける海外企業等との業務提携を行う新規事業を開始することを決定しました。これによりアプリのリリース時期を2022年1月としております。また株式会社capableにつきましては、設立後3年目に入り、アカウント販売による売上は減少したものの、引き続き有名タレントを起用して動画再生数を伸ばし、動画チャンネルを企業のプロモーション等に活用してもらうことで売上を伸ばしております。さらに当第1四半期より、ECサイトによる物販販売を開始し、売上獲得に貢献しております。

これらの結果、動画配信関連事業における売上高74百万円（前期比21.4%減）となり、セグメント損失は107百万円（前年同期はセグメント利益29百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

総資産は、前連結会計年度末に比べ165百万円減少し1,253百万円となりました。主な内訳は、現金及び預金696百万円、売掛金48百万円、商品及び製品12百万円、前払費用35百万円、未収入金81百万円、ソフトウェア144百万円、ソフトウェア仮勘定98百万円、関係会社株式10百万円、関係会社長期貸付金50百万円、敷金16百万円、差入保証金16百万円であります。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べて40百万円増加し399百万円となりました。主な内訳は、短期借入金60百万円、未払金74百万円、未払費用39百万円、契約負債61百万円、長期借入金140百万円であります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて206百万円減少し853百万円となりました。主な内訳は、資本金1,094百万円、資本準備金71百万円、利益剰余金△864百万円、自己株式△47百万円、新株予約権572百万円、非支配株主持分24百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの業績は、2022年5月期において業績回復及び企業価値の増大を目指すにあたり「ゲーム領域以外の事業の創出」を急務として事業を展開しておりますが、依然として「ゴシックは魔法乙女」1タイトルが売上高の58%を占めており、「ゴシックは魔法乙女」の動向によって会社業績が大きく左右される状況が続いております。

この状況を改善するため、ゲーム事業におきましては、新たに売上を獲得するために、シューティングゲームの金字塔『東方Project』のIP許諾を受け、新規ゲームの開発に着手しております。また当社を含む3社が出資者となるスマートフォンゲーム製作委員会(名称未定)につきましても、現時点におきましてリリース時期は未定となっておりますが、開発は順調に進行しております。

動画配信事業につきましても、引き続き「ゲーム領域以外の事業の創出」を目指しており、対面占いライブ配信プラットフォーム『占占(sensen)』につきましても、投資が継続しているものの、ゆるやかに売上を伸ばしております。次に、凱樂數位股份有限公司(Cave Interactive Taiwan Co.,Ltd.)につきましても、順調にライブ配信アプリの開発が進行し、早期収益獲得を目的として新規事業の開始を決定しております。また、株式会社capableにつきましても、設立後3年目に入り、引き続き動画再生や企業プロモーション等により売上を伸ばしており、新たにECサイト販売を開始し、さらなる売上獲得を目指しております。

さらに新たな収益基盤を確立するためにベトナムの優秀なエンジニア人材と日本企業をマッチングさせることで事業拡大を目的とするFIVESTAR BANK株式会社を設立いたしました。しかしながら、いずれのサービスも2022年5月期の業績に与える影響は測りがたい状況であります。

これらの状況から、現時点において信頼性の高い通期及び半期の業績予想数値を算出することが困難であります。したがって2022年5月期の業績予想につきましても、当面の進捗状況を踏まえ、合理的な業績見通しの算定が可能になった時点で速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	904,443	696,331
売掛金	34,300	48,727
商品及び製品	1,949	12,385
貯蔵品	57	58
前払費用	20,859	35,203
未収入金	85,028	81,009
その他	20,752	39,545
貸倒引当金	—	△3,161
流動資産合計	1,067,392	910,099
固定資産		
有形固定資産		
建物	24,655	24,655
減価償却累計額	△23,124	△23,276
建物(純額)	1,531	1,379
工具、器具及び備品	95,116	94,414
減価償却累計額	△92,158	△91,769
工具、器具及び備品(純額)	2,957	2,645
有形固定資産合計	4,488	4,024
無形固定資産		
ソフトウェア	152,223	144,281
ソフトウェア仮勘定	98,814	98,814
無形固定資産合計	251,038	243,096
投資その他の資産		
関係会社株式	9,251	10,992
関係会社長期貸付金	50,000	50,000
敷金	18,868	16,613
差入保証金	15,971	16,258
その他	1,957	1,934
投資その他の資産合計	96,048	95,798
固定資産合計	351,575	342,919
資産合計	1,418,968	1,253,019

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	60,000	60,000
リース債務	3,215	3,101
未払金	79,629	74,742
未払費用	39,248	39,202
未払法人税等	290	177
未払消費税等	20	5,566
前受金	22,345	—
契約負債	—	61,284
預り金	7,675	9,038
その他	7	131
流動負債合計	212,433	253,244
固定負債		
長期借入金	140,000	140,000
リース債務	6,508	5,732
その他	333	833
固定負債合計	146,841	146,566
負債合計	359,274	399,810
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,094,684	1,094,750
資本剰余金	71,299	71,364
利益剰余金	△305,543	△864,231
自己株式	△47,242	△47,242
株主資本合計	813,197	254,641
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,000	1,412
その他の包括利益累計額合計	1,000	1,412
新株予約権	217,791	572,327
非支配株主持分	27,703	24,826
純資産合計	1,059,693	853,208
負債純資産合計	1,418,968	1,253,019

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年6月1日 至2020年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年6月1日 至2021年8月31日)
売上高	437,192	280,444
売上原価	149,259	188,699
売上総利益	287,933	91,744
販売費及び一般管理費		
回収費	91,624	42,745
広告宣伝費及び販売促進費	33,338	19,890
役員報酬	14,400	22,272
株式報酬費用	30,825	347,625
給料及び手当	21,634	44,263
研究開発費	5,238	49,105
地代家賃	6,198	9,903
支払手数料	9,039	12,325
その他	59,210	66,184
販売費及び一般管理費合計	271,508	614,315
営業利益又は営業損失(△)	16,425	△522,570
営業外収益		
受取利息	247	248
貸倒引当金戻入額	200	—
持分法による投資利益	1,064	1,741
その他	205	99
営業外収益合計	1,716	2,088
営業外費用		
支払利息	—	633
新株予約権発行費	—	270
その他	—	237
営業外費用合計	—	1,141
経常利益又は経常損失(△)	18,141	△521,623
特別損失		
減損損失	5,490	—
特別損失合計	5,490	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	12,651	△521,623
法人税、住民税及び事業税	6,899	750
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	6,899	750
四半期純利益又は四半期純損失(△)	5,752	△522,373
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△2,877
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	5,752	△519,496

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	5,752	△522,373
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	—	412
その他の包括利益合計	—	412
四半期包括利益	5,752	△521,961
(内訳)		
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△2,877
親会社株主に係る四半期包括利益	5,752	△519,084

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、2020年8月28日開催の第26回定時株主総会の決議に基づき、資本金及び資本準備金の額を減少し、減少した額の全額をその他資本剰余金に振り替えるとともに、その他資本剰余金、利益準備金及び別途積立金を全額取り崩し、それらを繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損の補てんに充当しております。

この結果、第1四半期連結会計期間において、資本金が1,193,795千円、資本準備金が2,232,118千円、利益準備金が870千円、別途積立金が10,000千円減少し、第1四半期連結会計期間において資本金が1,094,684千円となっております。

当第1四半期連結累計期間(自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下の通りです。

(収益の認識時点)

ゲーム事業において従来はアイテムに交換できるポイントをアイテムに交換した時に収益に認識しておりましたが、顧客のアイテム交換後の見積り利用期間に基づいて収益を認識する方法に変更しております。

(取引価格の配分)

従来はアイテムに交換できる有償ポイントの購入に係る購入金額を、有償ポイントが消費された時点で収益を認識しておりましたが、収益認識会計基準等の適用に伴い、有償ポイントと有償ポイントの購入時に付与される無償ポイントに取引価格を配分することに致しました。これは、有償ポイントと無償ポイントがそれぞれ等価値であるという判断によるものです。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取り扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、収益認識会計基準等の適用により、2022年5月期の期首残高については、契約負債は39,190千円増加し、利益剰余金は39,190千円減少いたします。なお、当第1四半期連結累計期間の営業利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取り扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替を行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取り扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表計上額
	ゲーム事業	動画配信 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	342,786	94,406	437,192	—	437,192
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	342,786	94,406	437,192	—	437,192
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△12,601	29,026	16,425	—	16,425

当連結会計年度(自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表計上額
	ゲーム事業	動画配信 関連事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	206,258	74,185	280,444	—	280,444
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	206,258	74,185	280,444	—	280,444
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	206,258	74,185	280,444	—	280,444
セグメント損失(△)	△415,533	△107,037	△522,570	—	△522,570

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、前第4四半期連結会計期間より既存事業のさらなる成長と新規事業の拡大を目指し、当社グループの経営管理区分の見直しを行ったため、報告セグメントを従来のインタラクティブ事業のみの単一セグメントから「ゲーム事業」、「動画配信関連事業」の2つのセグメントに区分いたしました。前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものであります。

会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。この結果、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

(新株予約権の取得及び消却の決定)

当社は、2021年5月28日開示の「第三者割当による第29回新株予約権（行使価額修正条項付）及び第30回並びに第31回新株予約権（行使価額修正型新株予約権転換権付）の発行に関するお知らせ」にある2021年6月14日に発行致しました株式会社ケイブ第29回、第30回、第31回新株予約権（以下「本新株予約権」といいます。）につきまして、下記のとおり、2021年10月25日（予定）において、残存する本新株予約権の全部を取得するとともに、取得後直ちに全部を消却することを決議致しました。

1. 取得及び消却する新株予約権の概要

(1) 第29回新株予約権の概要

発行した新株予約権の個数	5,000個
新株予約権の払込金額	総額 5,100,000円（1個当たり1,020円）
新株予約権の目的である株式の種類及び数	普通株式 500,000株（新株予約権1個につき100株）
新株予約権の残存数	4,999個
取得金額	総額 5,098,980円（1個当たり1,020円）
新株予約権の取得日及び消却日	2021年10月25日（予定）

(2) 第30回新株予約権の概要

発行した新株予約権の個数	2,000個
新株予約権の払込金額	総額 1,360,000円（1個当たり680円）
新株予約権の目的である株式の種類及び数	普通株式 200,000株（新株予約権1個につき100株）
新株予約権の残存数	2,000個
取得金額	総額 1,360,000円（1個当たり680円）
新株予約権の取得日及び消却日	2021年10月25日（予定）

(3) 第31回新株予約権の概要

発行した新株予約権の個数	2,000個
新株予約権の払込金額	総額 452,000円（1個当たり226円）
新株予約権の目的である株式の種類及び数	普通株式 200,000株（新株予約権1個につき100株）
新株予約権の残存数	2,000個
取得金額	総額 452,000円（1個当たり226円）
新株予約権の取得日及び消却日	2021年10月25日（予定）

2. 新株予約権の取得及び消却を行う理由

当初の見込みよりも、当社株価が行使価額を下回る水準で推移しており、未行使の本新株予約権について、事実上行使ができない状況が継続しております。本新株予約権に係る資金需要を充足するための新たな資金調達を検討する必要が生じたためであります。